



令和4年度 中学生ヒロシマ平和の旅 事業実施報告



中学生ヒロシマ平和の旅について

伊勢原市では、広く市民の平和意識を啓発することを目的に、市立4中学校の3年生を対象に「中学生平和作文」を募集し、表彰しています。これまで、優秀賞受賞者は「中学生ヒロシマ平和の旅派遣団」として、広島市で行われる平和記念式典への参列や、資料館の見学を通し、平和の大切さを学び、「平和のつどい」でその報告を行ってきました。

令和2・3年度は、新型コロナウイルス感染症の影響により、広島市への派遣を中止していましたが、令和4年度は優秀賞受賞者4名を、3年ぶりに広島市へ派遣することができました。

事業内容

日時：令和4年8月5日（金）～6日（土）

場所：広島平和記念公園・広島平和記念資料館 ほか

参加者：中学生ヒロシマ平和の旅派遣団 4名 ほか

（旅の実施まで）

- ・事前学習会と市長教育長表敬訪問

（旅当日の行程）

- ・ヒロシマピースボランティアによる広島平和記念公園ガイド
- ・広島平和記念資料館見学
- ・平和記念式典（広島市原爆死没者慰霊式並びに平和祈念式）参列
- ・国立広島原爆死没者追悼平和記念館見学
- ・広島市内散策

（旅の実施後）

- ・「平和を祈念するパネル展示」にて展示する体験報告書の作成



8月5日 原爆ドーム前にて

事業報告

○事前学習会・市長教育長表敬訪問 7月29日（金）

伊勢原市役所にて、東海大学文化社会学部広報メディア学科の水島教授による事前学習会を終えた後、市長教育長への表敬訪問を行い、激励のことはもらいました。



○広島での様子

8月5日（金）

11：40 広島市到着

広島駅に到着すると、天気はあいにくの雨。お弁当を食べながら、雨が止むのを待ちます。広島駅周辺の地図を見ながら、これからの散策に期待が高まります。出発時には雨もあがり、平和記念公園へ向かいました。



14：00 ヒロシマピースボランティアガイドによる広島平和記念公園ガイド

原爆の子像、原爆ドーム、慰霊碑などを見ながら公園周辺を散策しました。明日の平和記念式典のリハーサルが進行する公園内を、ガイドさんの解説を聞きながら回ります。レストハウスの地下では、被爆時に近い状態で残る地下室を、間近で見学しました。



見学の最後には、平和への祈りを込めて平和の鐘を鳴らしました。



15:00 被爆遺構展示館見学

平和記念式典の準備が進む公園内を進み、令和4年3月に開館したばかりの被爆遺構展示館を見学しました。原子爆弾による被害の痕跡を目の当たりにし、改めて原爆の脅威を実感しました。



16:00 平和記念資料館見学

貴重な資料のひとつひとつから、原爆の凄まじさを感じ取りました。



●派遣団の声

- 展示を見て、とても衝撃的で胸が痛くなりました。今までは教科書でしか知らなかったけれど、自分の目で当時のものや、写真を見ることで、改めて原爆の脅威や、広島
の悲惨な事実を心から痛感しました。(矢本)
- 見るに堪えないような写真や映像、展示物がたくさんあり目を背けたくなるような悲
惨で残酷な状況であったことを目の当たりにしました。しかし、原爆によって起こっ
た事実をしっかり見て、現実から目を背けるのではなく、感じたこと、学んだことを
伝えていかなければいけないと思いました。(須藤)

8月6日（土）

8：00 平和記念式典参列

派遣団の皆さんは、伊勢原市民を代表して式典に参列し、平和を祈りました。



●派遣団の声

- ・まず、参列者の多さにとても驚きました。日本だけでなくたくさんの国の人々が参列していて、人々の平和に対する思いの強さを実感しました。一刻も早く核の廃止が実現してほしいと、自分も強く思いました。（矢本）
- ・式典中は、ものすごい緊張感を感じました。このときは、みんなが平和を思う気持ちでひとつになれている気がしました。特に、こども代表の平和への誓いがとても心に響きました。私たちも、被爆者の思いを伝えていくべきだと感じました。（廣山）

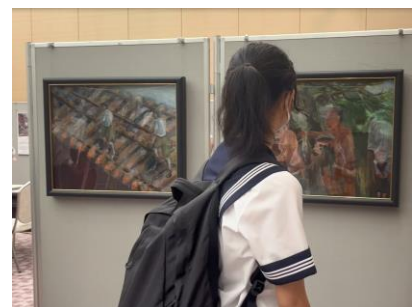
9：00 国立広島原爆死没者追悼平和記念館見学

記念館に所蔵されている、被爆者の証言ビデオを視聴しました。



10：00 広島市の高校生が描く「原爆の絵」見学

広島国際会議場で開催された「ヒロシマの心を世界に」にて、基町高等学校の高校生が描いた「原爆の絵」を見学しギャラリートークに参加しました。絵を描いた高校生の思いも、直接聞くことができました。



●派遣団の声

- 作者の記憶をどこまでも忠実に再現したいという強い気持ちに驚かされました。描いている場所や思いは様々でしたが、戦争の悲惨さを伝えようとする被爆者の方々の思いは同じなのだと感じました。（今井）
- 絵を描かれた高校生の話を聞いて、被爆者の方からたくさん話を聞き、伝えたい強い思いがあるのだと感じられました。被爆者の方の後世へ伝えなければいけないという思いと、被爆体験を語り継がねばという高校生の使命感が感じられました。（須藤）

11:00 広島市内散策（広島市立中央図書館→爆心地見学→広島市電乗車）

広島市中央図書館にて、「広島復興を支えた音楽」についての企画展を、司書の石井さんに解説いただきながら見学しました。



その後、爆心地である島病院を見学。原子爆弾の炸裂した上空580メートルを見上げました。ホテルまで戻る際には、“ヒロシマ復興のシンボル”とも呼ばれる被爆電車「651号」にも乗ることができました。



15:00 広島駅発

17:00 伊勢原駅着

長旅お疲れ様でした！



○派遣生徒の感想 -中学生ヒロシマ平和の旅に参加して-

団長 須藤 寿友（成瀬中学校）



今まで以上に平和に対する思いの重みが増しました。「平和は大切」と漠然とさせたまま終わらせず、もう一步踏み込んで過去の戦争のこと、原爆のおそろしさを学び、それを発信し行動し続けることが僕たちにできる平和への取り組みであると伝えたいです。

矢本 はな（山王中学校）



平和の旅に参加し、5月に平和作文を書いたときよりも、平和に対する思いが一層強くなりました。今回の平和の旅を通して学んだ平和の尊さや、原爆の恐ろしさ、広島の人々の思い、そして被爆者の思いを語り継いでいく大切さを、伊勢原に住む同級生に伝えたいと思いました。

廣山 悠（伊勢原中学校）



よりいっそう平和について深く知り考える力がついたように思います。当時の悲惨な広島を見て、私たちに出来ることは「忘れないこと」だと考えました。今回学んだ事は、伊勢原に帰ってからも身の周りの人に伝えるべきだと感じました。人生で忘れられない旅になったと思います。

今井 陽香（中沢中学校）



私平和作文を書いた5月の自分と比べて、平和のために互いの違いを認め合い、尊重していかなければならないという考えは変わりませんでした。平和を思う気持ちは深まりました。同級生には、戦争は遠い日の他人事だと考えず、自分たちはもう後世に伝えていく当事者であるということを伝えたいです。

派遣団の皆さん、東海大学水島ゼミの皆さん、
随員の先生方、忙しい中、本当にお疲れさまでした！

